

2022年12月25日～12月31日 各家庭でのディボーション用テキスト

この川で経験される今の悩みと苦しみとは、神があなたを見捨てられたしるしではなく、あなたがこれまでにその恵みから受けたものを思い起こして、苦難の時に神により頼むかどうかを試みるために遣わされたものです。

それから私が夢で見ていると、基督者は暫く考え込んでいるようであった。有望者はまた彼に向かって次の言葉をつけ加えた、元気をお出しなさい。「イエス・キリストがあなたをいやして下さる」【使 9:34】のです。これを聞くと同時に基督者は大きな声で呼ばわった、おお、再び主が見えます。彼は語られます、「あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない」。【イザ 43:2】そこで二人共勇気を奮い起こした。すると敵は彼らが行き過ぎてしまうまで石のように黙した。【出 15:16】基督者はやがて足場を見出したので、あとはずっと浅瀬になった。こうして二人は渡ってしまった。さて、川の向こう岸に上ると彼らを待っている二人の輝ける者が再び見えた。川から出て行くと、彼らは挨拶して言った、私たちは救いを受け継ぐべき人びとに奉仕するため、つかわされた霊です。こうして彼らは門に向かって歩いて行った。さて、注意していただきたいが、都は大きな丘の上にあった。しかし巡礼者はやすやすとその丘に登って行った。腕をとって導いてくれる二人があったからである。彼らは死の衣を川の中において来た。入るときは着ていたが出て来るときには脱いでいた。都の築かれてある基礎は雲よりも高かったが、身軽く足早に登って行った。道々楽しく語らいながら登って行くのであった。そしてこのように輝かしい道連れが付き添ってくれるのに慰められて、無事に川を渡った。

彼らが輝ける者たちと語った話はその所の栄光についてであった。彼らの話ではその美しさ輝かしさは言うに言われぬということであった。彼らは言った、そこには「シオンの山、天のエルサレム、無数の天使の祝会、全うせられた義人の霊」

【ヘブ 12:22-24】があります。今あなた方は神の樂園へ行くところですが、そこで命の木を見【黙 2:7、3:4】、その決してしぼまぬ実を食べるでしょう。そこへ行けば白衣が与えられ、日毎に王と歩みまた語って、永遠に続くでしょう。そこでは地上の下界にいたころ見たようなもの、すなわち悲しみも病気も痛みも死も二度と見ないでしょう【黙 21:4】。先のものが、すでに過ぎ去ったからです。あなた方はこれからアブラハム、イサク、ヤコブと預言者たちの所へ行くところですが、神は彼らを来たるべき災より取り去られて【イザ 57:1-2】、今や彼らはその床に休み、それぞれ義の中を歩いています。そのとき彼らは尋ねた、その聖なる所で私たちは何をなすべきでしょうか。それには次のように答えられた。あなた方はそこで今までのすべての労苦の慰めを受け、すべての悲しみに対して喜びを得、蒔いたもの【ガラ 6:7】、すなわち、道中で王に対するすべての祈りと涙と苦しみとの実を刈り取らね

ばなりません。そこでは黄金の冠をつけ、聖なる者を絶えず目のあたり拝して喜ぶのです。あなた方はそのまことのみ姿を見るからです。【**Iヨハ3:2**】そこではまた絶えず賛美と歓呼と感謝とをもって主に仕えるのです、世にあるとき仕えようと願っても肉の弱いために非常に困難でありましたが。そこでは目は大いなる者を見、耳は快いみ声を聞いて喜ぶでしょう。そこではあなた方よりも先に行った人たちと再び交わりを結ぶでしょう。そして後から続いてその聖なる所に入って来る人びとを喜んで迎えるでしょう。そこではまたあなた方は栄光と荘厳とで装われ、栄光の王と共に乗って出かけるために用意された馬車に乗せられるでしょう。【**Iテサ4:13-16、ユダ14、ダニ7:9-10、Iコリ6:2-3**】。王が風の翼にでも乗るように雲の中をラッパを響かせてお出でになられるとき、あなた方もいっしょに来るのです。彼がさばきのみ座におつきになるとき、あなた方もまたその側につきます。実に、彼は、天使でも人間でも、すべて悪事を働いた者に宣告を下される時、あなた方もそのさばきについて意見を述べる事ができるのです。彼らは王の敵であると同時にあなた方の敵でもあるのですからね。また王が都に帰還される時、あなた方もまたラッパを響かせ、供をしていつまでもみ側にいるのです。

さて、彼らがこうして門に近づいて行くと、見よ、天の軍勢の一隊が出迎えに出て来た。他の二人の輝ける者が彼らに言った、これは世にある間私たちの主を愛し、聖なるみ名のためにすべてを捨てた方がたです。主は彼らを伴って来るよう私たちをお遣わしになったので、私たちは彼らのあこがれの旅路をここまでお連れして来たのです。それは彼らが中に入ってあがない主のみ顔を喜んで仰ぐためです。すると天の軍勢は大きな叫び声をあげて言った、「小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。【**黙19:9**】この時また彼らを出迎えに出て来たのは王のラッパ手数名で、白い輝いた衣を着、りゅうりょうと高らかに吹き鳴らして、もろもろの天にまでこだまさせた。これらのラッパ手たちは、世を離れて来た基督者とその仲間とに何度も繰り返し歓迎の挨拶をした。つまり、歓呼の声をあげ、ラッパを吹き鳴らしたのであった。

これがすむと、彼らは四方から二人を取り囲んだ。あるいは前に、あるいは後に、あるいは右手に、あるいは左手に（まるで天上界を護衛して行くかのように）付き添い、絶えずりゅうりょうたる音を調子も高らかにひびかせて行ったので、その光景は、それを見ることのできた者には、まるで天国こぞって出迎えに下って来たかのようにであった。こうして彼らはいっしょに歩いて行った。歩きながら、時々このラッパ手たちは喜びに満ちた楽の音を奏し、その音楽に目付きや身振りを交えて、基督者と兄弟を仲間に迎えることをいかに歓迎するか、どんなに喜んで出迎えに来たかを絶えず知らせるのであった。今やこの二人は天使たちを見、りゅうりょうたる音を聞いて気を吞まれ、天国に着かないうちに早くもそこにあるかのような気がした。ここで都を望み見て、その中のすべての鐘が二人を歓迎して鳴りわたるのが聞こえるように思った。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい